

## 白井市特別職報酬等審議会第5回会議

1. 開催日時 令和4年9月29日（木）午後6時から午後7時30分まで
2. 開催場所 白井市役所東庁舎1階会議室101
3. 出席者 福島会長、平川委員、野水委員、松本委員、長島委員、中村委員、霞委員、米井委員、高橋委員、今委員
4. 事務局 松丸総務部長、高山総務課長、奥村副主幹、本橋主査
5. 傍聴者 5名
6. 会議次第 第5回白井市特別職報酬等審議会会議  
議題1 市議会議員の報酬改定（案）について  
議題2 答申について  
議題3 その他

○会長 それでは、皆さんこんばんは。本日、夜になりましたけれども、御多忙の中お集まりいただきましてありがとうございます。今日は、かなりタイトで、最後の詰めということになるかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、ただいまより第5回白井市特別職報酬等審議会の議事を進めていきたいと思えます。

最初に定足数の確認でございますが、本日10名の委員が参加しております。皆さん参加していただいております。ですので、会議として成立していることをまず御報告申し上げます。

また、本会議は公開としておりますので、傍聴が許されています。本日は5名の方が傍聴されています。会議については、会議録の作成のため、音声を前回と同じく録音させていただきます。

委員の皆様におかれましては、発言ある場合には挙手にて発言を求めてください。また本日も、発言の際は、先ほど事務局から冒頭にございましたように、お手元のマイクを使用してください。円滑な議事運営に御協力くださいますようお願いいたします。また密な議論もよろしくお願いいたします。

では早速、議事に移りたいと思えます。前回の会議では、議員報酬の改定案に向けて、皆様方から様々な建設的な御意見を頂いたところです。この第5回では、前回皆様から出された論点について整理をしながら、最終的な報酬額の改定案を決めるところまで進めたいと考えております。

また、議題の2にありますように、これまでの審議結果をまとめて市長に答申する必要があります。したがって、答申に盛り込む具体的な内容についても、委員の総意をまとめていく作業に入りたいと思えますので、ボリュームがありますが御協力を頂け

ればと存じます。

それではまず、前回の会議で幾つかの追加の資料がありましたので、まず事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局 では、事前に送付しました資料のうち、A3縦版で2枚あります資料、本日1枚、差し替えをお願いしていますが、議員報酬見直しのシミュレーションを御覧ください。修正版と上に書かれたほうが正しいほうです。

前回、会議の中では論点として、議員定数のほかに、報酬額の改定を検討するに当たり、キャップをはめた議論として、議会費割合をどう考えるかという御意見がありました。議会費割合については、1%を適当と見るか、割合を減らすようにするかなど御意見があったところではありますが、実務としまして割合を固定する、あるいは減らすよう試算するという作業は、不確定要素が多い中であって非常に難しいので、現行の議員報酬プラス期末手当の総額をベースにして資料作成、シミュレーションしたものです。

字が小さくて恐縮ですが、この表の見方としましては、一番上の表、画面にも出ていますが、一番上の表が、現行の白井市の議員報酬と期末手当の額になっています。議長は1人、報酬39万円から、議員は15人で報酬30万円まで、それぞれ12か月を掛けて年額を出し、期末手当の年額も出して合計したものが報酬プラス手当の欄に記載された金額です。それに人数を掛けまして計算して、現行の議員定数21人の合計では、1億1,003万7,000円、年間の支出額となっています。この積算方法により、報酬を1万円刻みで上げていった場合の積算が下に続いており、資料2枚目の一番下、10万円増の場合まで積算しました。

また、資料1枚目の上のほうですが、グレーで色をつけて四角囲みした中に書いてありますが、シミュレーションは2パターンで積算しています。

①としまして、現行の議員報酬額に対し、プラス $\alpha$ 万円、ほかの職も同様にプラス $\alpha$ 万円とした場合、これが1万円増などという、緑で縦に二つの表をつないでいますが、この緑の中の上の表、定数などを青で着色している上のほうの表の積算方法です。差額の欄を見ると分かりますが、この青のほうの表は、現行額に単純にプラス $\alpha$ 万円としたものです。

②としまして、現行の議員報酬額に対しプラス $\alpha$ 万円、ほかの職については、本日配布しました資料5、前回配布した資料と同じものですが、こちらに載っています議員報酬に対する議長と副議長の加算率、類似団体平均、真ん中辺り、グレーで載っていますが、こちらを参考にしまして、議長の加算率119.9%、副議長の加算率106.2%、このように出ているものを積算上は議長120%、副議長106%として計算しまして、資料5の裏面になりますが、真ん中辺りにあります議会運営委員長と一番左にあります常任委員長につきましては、平均加算額が1.4万円、1万4,000円となっていることから、これを基に積算したのがオレンジの表です。

各表の下、欄外にあります影響額、これについては、先ほど見ました現行の議員報酬  
不足、手当21人分の総額がある二重線で囲まれております1億1,003万7,000円、これと  
比較した金額です。

この表の見方については、よろしいでしょうか。

議員定数については、この資料の中でも各表の右側の人数のところを書いてありますが、  
21人プラスマイナス0の現行どおりとした場合、例えば1万円増のところの青い表  
ですが、現行どおりとした場合は、影響額として358万2,600円の増。20人、議員定数を  
マイナス1人とした場合は、影響額としましてマイナス170万6,000円と、このように1  
人ずつ減らした場合の影響額を下で出しています。

ここで、黒地の数字は、報酬額を上げることで影響として支出が増額することを意味  
しています。赤字については、報酬額はベースアップするものの、議員定数を減らすこ  
とで全体としての影響はマイナスになることを意味しているものです。この辺りは、報  
酬額の増額を考えるに当たり、キャップをはめた議論という話も前回、前々回で方向性  
として出ておりましたので、参考に見ていただければと思います。

事務局からは以上です。

○会長 ありがとうございます。今、事務局から資料の説明をいただいたところですが、  
まず資料について何か質問がありましたら、議論の前に質問していただければと思  
います。特によろしいでしょうか。

それでは、ないということですので、早速議事のほうに進んでいきたいと思  
います。

まず、今日の議論をする上で、進め方について皆様方の御意見をお聞きしたいと思  
います。

まず、現在の報酬の総額ですけれども、先ほど事務局からありましたように、1億1,003  
万7,000円というのが現在の総額です。報酬の増額を検討する上で、この1億1,003万  
7,000円をどう見るかということをお諮りしたいと思  
います。つまり、これを上限とする  
か、キャップとするかどうかというところを議論したいと思  
います。

資料の影響額について、先ほど事務局から説明がありましたように、黒字の増額と赤  
字の減額の幅が大きいところがあります。例えば、2万円増のところを御覧いただきま  
すと、2万円増の増額の表のオレンジの表のところ、1人減らすと、152万1,752円と  
なっておりますけれども、約152万円増えるということですね。2万円増やして1人減ら  
しても152万円増えてしまうと。

これに対して、2人減らすと、今度は394万円ぐらい減額になると。このような場合  
でも、キャップとして現行の額以内で調整すると考えるのか、それとも、少し柔軟性を持  
って、現行の額をベースとして大体このぐらいと考えるのか。上限か、ベースとするの  
か、その辺のところを一旦、皆様方に御意見をお聞きしたいと思  
います。このキャップ  
にするか、ベースにするかというところですが、こちらのほうをまず議論させていただ

きたいと思います。この辺り、いかがでしょうか。もし御意見があればお願いいたします。この1億1,003万7,000円、これを上限とするのか、それとも、ここを基準とするという程度に考えるのか。いかがでしょうか。

どうぞ、委員。

○委員 よろしく申し上げます。すみません、前回欠席して分からないのですけれども、定数を減らすこともありきで考えて大丈夫なのですか。それも、もう審議に入るということですか。

○会長 前回、定数も減らし、この額を上げるということです。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○会長 それでは、いかがでしょうか。

委員、お願いします。

○委員 キャップをはめるというよりは、大体ベースとして考えたほうがいいかなと思っています。ただ、その幅もあまり大きいと、全体の費用の1%というところから大きく離れてしまうので、例えば5%ぐらい、だから70万円ぐらいのバッファを設けて考えるぐらいの感じがいいのかなと思っています。ざっくりですけれども。

○会長 ほか、いかがでしょうか。

それでは、委員、お願いします。

○委員 資料を作ってきましたので、会長の御了解をいただければ、事務局に渡しておりますので、配布してもらってよろしいですか。

○会長 はい、結構です。

○委員 私がこのA3のデータを作ったポイントは、今、事務局から頂いた資料は数表ばかりで、読み解くのは大変難しいですので、私はいつも、こういう数字についてはグラフにして、自分のところの立ち位置が分かるようにするのが一番理解しやすいと、そう思って、このデータを作りました。

事務局の方に作っていただいた資料と私のデータの資料の違いは、私のは、まずマクロ的なものです。議長が幾らとか1万円が幾らとか、そういうようなミクロからスタートした捉え方ではなくて、私は、議員報酬額と議員数という全体のマクロから見てみようと、それが第1点です。

それから、事務局さんに作っていただいたのは、まず月額を幾らアップという、もうアップありきで進んでいる議論なので、もちろん定数減が加味されていますから、総報酬額がマイナスのところもありますね。私のものは一応、議会比率0.7%というのを据え置いたままやると、どうなるかという見方をしました。

上にある数表は、白井市、印西市、鎌ヶ谷市、それから類似団体ということで、事務局さんから頂いた総報酬と議会比率、議員定数、それから1人当たりの報酬、CがB分のAですね。それで、1万人当たりの議員数の比較。

これを真ん中のグラフで読み解くと、横軸は議員1人当たりの報酬。これは一人一人もらっているベースではなくて、供給ベース、支出ベースですから、ここには上の注釈にありますように、報酬プラス期末手当プラス共済費、これの全体です。要は、議員の方々に幾ら白井市の予算から出しているかという金額ですね。

これは、ですから、横軸で見ると、1年間で白井市は650万円ほど要していると。縦軸は1万人当たりの議員数です。これは、議員数が多いか少ないかというのが相対的に分かるわけですね。

この立ち位置を見ますと、赤字で書いてあるのが白井市と隣の印西市と鎌ヶ谷市です。これだけ見ると、明らかに白井市は少ないです。だから上げてくれというのは当然分かります。それで、縦軸は1万人当たりの議員数です。

何がいいかというのは、全くこれは回答はありませんけれども、このグラフで見ると、白井市は鎌ヶ谷市、印西市の近隣市よりも報酬は少ない。しかし、人口1万人当たりの議員数は多いと。大雑把に言えば、二つの市に比べて報酬は3分の2です。その代わり、議員数は2分の3です。全く真逆の現象ですね。

だから、報酬を上げてほしいという要請は分からないでもないです。しかし、よく考えて見ると、白井市は議会比率0.7%で、隣の印西市と鎌ヶ谷市は0.6%です。0.6を据え置きと考えると、このグラフを見たとおりに、議員定数は削減せざるを得ないのではないかというのは、誰が見ても一目瞭然だと思えるのです。

その下に、現行の総報酬を据え置くことを前提に、報酬アップの要請を満たすにはどうしたらいいかというのと、これは私が勝手にプランA、プランB、プランCを作ったのです。議員定数が2人ずつ減ると、19人、17人、15人と。定数削減率が大体9.5%、19.0%、約30%と、どんどん減りますね。その場合、議員1人当たりの報酬はもちろん上がります。それをグラフで見ると、白井市の現行から右肩下がりで、プランA、プランB、プランCで、もちろん下がるわけです。報酬が上がると右に行く。人口当たりの議員数が減ると、当然下に下がると。右肩下がりに下がるわけです。

印西市と鎌ヶ谷市に近づくには、プランBかプランCなのです。これでも議員比率が0.7%と、二つの市に比べて多いのは別の問題として差し置いて、こういうふうに近隣並みに議員の報酬を上げるとすれば、定数というのは削減せざるを得ないのです。

今、市の事務方から出ている定数減は、20人、19人、18人という3パターンですね。これで果たして追いつくのかというのが私の個人的な考え方です。少なくとも、プランCであっても、まだ鎌ヶ谷市、印西市よりも多いのです。だから本当は、理屈でいうと14人ぐらいがあれなのです。ただ、あまりにもこれでは激変しますので、世間一般では激変緩和措置といって、徐々にやっていると。

これは結論ではないのですけれども、例えばプランAを今回やって、4年後にプランBにするとか。そういうふうに、なだらかに議員定数を下げつつ報酬を上げていくと。

それしかないのではないかなというのが私の個人的な思いです。それでなくても、議員比率が高いのですから、うちは。

それで、白井市の趨勢を見れば、私は前回言いましたけれども、市自身が令和2年で人口はピークだということを認めているわけですね。人口が減るわけです、間違いなく。恐らく収入も減るのでしょう。その中で、収入が減るのであれば、このプランB、プランCにいったとしても、そのときは、議会比率はもしかしたら0.8%ぐらいに上がるかもしれないのです。だから0.7%に据え置いたとしても、このぐらいの報酬と定数減というクロスで物事を考えたほうがいいのかというのが、そこが決まったら、各論として、月額幾ら上がるかと、そういう議論を後からやるべきではないかというのが私の考えなのです。

以上です。

○**会長** ありがとうございます。今、こちらの資料には、グラフで出ていますので、非常にイメージが湧きやすいかと思いますが。こちらを今、御覧いただきまして、今、委員からありましたように、定数削減はもう前提となるというような御意見かと思いますが、他市と比べると、議員定数が多いという御指摘がありました。

この辺のところも踏まえて、前回までの議論も、議員報酬を上げると。先ほど委員のお話にもありましたように、明らかに他市と比べて議員報酬は低いということでもありますので、これは前回までの議論であったところです。市民感情に配慮すると、その議員定数との関係が出てくるということでしたけれども、今、委員にこのグラフに落としていただいて、議員定数が、その議員報酬とは別で、そもそも多いのではないかという御意見を頂いています。」議員定数が多いのではないかと、減らすべきなのではないかというところが両面から根拠づけられたような気がしますが、何か皆様方のほうから御意見がございませうでしょうか。

どうぞ、委員。

○**委員** 委員、ありがとうございます。大変分かりやすい図で参考になりました。

御質問というか、委員のこの前提としては、今、冒頭に会長からお話があった現行の1億1,000万の報酬額を、これはいわゆるキャップ、完全にキャップにして、人数を減らして行って、余ったお金で減らした議員の報酬を上げていくという、そういうお考えの下にこれを作られたということによろしいですか。そうすると、さっき委員が言われたこととちょっとニュアンスが違うのかなという。

要は、キャップに関する考え方のところなのだと思いますけれども、ちょっと違うかなという気がしましたので。そこを詰めたほうがよろしいかなと思ったのですけれども。

○**会長** 委員、お願いできますか。

○**委員** 事務局で作っていただいたこのデータ、非常に細かくやっていただいてありがとうございます。私の感じでは、右に20人、19人、18人というパターンがありますね。

そこの一番下に影響額が書いてあります。これは、黒字のところは当然、今の議会費よりも増えるわけですね。赤字はマイナス。私は、過度にマイナスにすることはないと思いますけれども、プラスはとても今の市の財政、それから市の人口構成等から見れば、これはかなり踏み込んだあれになるのではないかと。とても私は個人的に、こういうような黒字、増えますよということに賛成はし難いなど。赤字のどこかで落とし込むのが、市民感情としては、あれではないかと。

ついでに、なり手不足だとか、そのために報酬を上げなければいけないという議論がいつも出ますけれども、私は前回この場で、必要条件けれども必要十分条件ではないと言ったのですが。この真ん中のグラフで、例えば白井市は、前回の市会議員選挙は、スマホで載っていますけれども、21人の議員に対して候補者は23人なのです。23分の21なのです。印西市はどうかというと、印西市は22人に対して24人なのです。鎌ヶ谷市は24人に対して29人なのです。四街道は同じ千葉県で、20人に対して24人。ところが、茂原市は、前回だけの現象か分かりませんか、22人の議員に対して32人立っているのです。これは理由は分かりません。さほどに、報酬が上がれば、活発な議員立候補があるとは言えないと。

では、一番右のほうの国立、清瀬。国立市は21人の議員に対して25人。清瀬市は20人に対して25人です。大体プラス3人前後。これは、何をもって活発な立候補というか市会議員選挙なのか、これは各地の事情があるから分かりません。人数が多ければいいというものではないし、これは質の問題もあるけれども、質の問題は問えないので、なり手不足と、不足と言っているのだから、人数のことでしょう。

白井市がこのプランAやプランBのように上げたからといって、例えば19人のプランAにしたからといって、30人ぐらい立つとは思えません。同じように二十二、三人かもしれませぬ。だから僕は、なり手不足の問題というのは、この問題は検証は別だと思っているのですね。もっとやはり違った見方で検証して、努力しなければいけないと。

それから、ついでに言うと、議論の多様化が担保できないとか、いろいろなことは言いますけれども、これは、こういう審議会とか公聴会とかいろいろな場で市民の声を聞くようなシステムづくりをすることで、意見の多様化を吸収するということが不可能ではないと私は思っているのです。

ですから、議員の数がたくさんいて、優秀な方がたくさんいて、だから望ましい姿だということではないと思うので。僕は、議員のなり手不足が問題だから議員報酬を上げるというのは、あまりにも結果的には身勝手な論理になりかねないと、これは、私は前回から言っています。多分、ここにいらっしゃる方も皆似たような気持ちを持っていると思うのです。私ばかりしゃべってはいけませんから、これで終わります。

○会長 それでは、ほかの委員の方、いかがでしょうか。

委員、お願いします。

○委員 まず一番初めに会長さんがおっしゃられたキャップをはめるかどうかというところからですけれども、私もそんなにバッファーを設けてという感じではないので。キャップをはめて、そこを超えないというのは、別に私はいいいと思います。

あと、二つ目のなり手不足云々という話に関しては、私はちょっと違う意見を持っていますけれども。ただ、これに関しては、多分、最後の答申のまとめの中でやっていく話かなと思うので、そのときに必要であれば意見交換させていただきたいなと思っています。まず、今そのように思いました。

○会長 今、委員からキャップでも構わないということですので、先ほどの委員が、やはり議会費が上がりといいますか、金額が上がるのは市民感情としては、いかがなものかというところからして、キャップというのは外せないということです。そのことについては、委員も理解をしたということかと思いますが。ほかにございますでしょうか。

それでは、今、御意見頂いたとおり、この1億1,003万7,000円を上限として考えていきたいと思っています。先ほど委員から出していただいた資料と、それから御説明も参考にしながら進めていきたいと思っています。

それではまず、この資料について、いろいろ御説明いただいて可視化できましたので、次に、議員報酬の増額と、それから議員定数の関係。これも、委員のこのグラフでよく分かるところですが、こういうものも見ながら考えていただければと思います。

この議員報酬に入る前に、あともう一つ、先に決めておきたいことがあります。それは役職者の報酬なのですが、役職者の報酬の考え方が、現在、議長などの役職者に対してお金が増額されているのですが、この増額をどう考えるかですけれども。これは現金で増額していますが、他市、類似団体を見てもみると、加算率という考え方ですね。先ほどの資料5にあるように、加算率という考え方で議員報酬に率を掛けているわけですね。ところが、白井市の場合は、単純に金額加算ということになっているということで、この辺のところも先に御意見をお聞きできればと思います。この辺のところはいかがでしょうか。

委員、お願いします。

○委員 多分この辺りで、今の白井市の考え方のように定額で増やしていくのか、率で増やしていくのか、その率をどうするのかとか、そういう議論をまとめるというのは結構難しいと思っています。なので、今は一旦、今の金額の額差のまま考えて、やはり議長と一般の議員さんとの間で差をつけなければならないという話になるのだったら、それは最後の調整で、議会なのか事務局なのかで調整いただければいいことのような気がします。まずは、全体感の議論を中心にやったほうが今日はいいのかなと考えています。

○会長 そうすると、今日は、今、事務局で作っていただいたのは、この青とオレンジのものがあるのですが、青のほうが単純に額を増やしているというものです。それから、下がこの率でやっているということで、この辺のところは全体の総額にかか

ってきますので、それでちょっとお尋ねしたいのですが、そうすると、青のところでは議論するということですかね。

○委員 はい。

○会長 という意見ですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。特に。

それでは、こちらの役職者については、現行のように、例えば常任委員長だと、これは1万円ですね。議運の委員長も1万円アップ。1万円ずつ普通の議員よりは多いということで。副議長は2万円。議長になると多いですね、9万円プラスということで、これを前提に、キャップの問題がありますので、ここの青いところで考えていきたいと思います。

どうぞ、委員。

○委員 あと、実際にオレンジと青の違いで見たときに、今のこの資料のオレンジのほうで見ると、ある面では常任委員の方、議会運営委員長の方とかが大きく上がるような形になるのですが。

実際の業務をされている方から見たときに、そのプラス1万円と、今回、オレンジが大きく上がるのですけれども、行っている業務から見たときに、どちらのほうがある面、実態に合っているのかなという点だけ、ちょっと確認ができればと思ったのですけれども。この点というのは、いかがなのでしょう。

○会長 この辺は、どうですかね。事務局から見てもというか、なかなか回答が難しいとは思いますが。

○事務局 すごく難しい問題かと思うのですけれども。一応、事務局としても、一案ではなく、なるべく複数案ということで、上の表で今説明いただきました現行の加算をベースでスライドしているシミュレーションになっていまして、下のほうは、類似団体と比較して同じような数字を入れております。

今の御指摘は、議運の委員長と常任委員長が、現行1万円の加算ですけれども、類団という市の平均を取りますと1.4万円の増ということを今回そこを捉えさせてもらってシミュレーションをしていますので。

それぞれの議運委員長、常任委員長は、もちろんそれぞれの委員長という立場で議会を采配されるという、大変重責を担っているということは理解しておりますが、この金額の適正というところ、1万4,000円を上げるということがどうかというのは、なかなかお答えするのは難しいと思います。あくまでも参考値という考えで捉えていただければと考えております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

今までこれで来て、議会の中でそのように運営をされてきたということから見ると、ちょっと分かりませんが、特に不満なくと言えば語弊があるかもしれませんが、

そのまま慣例として進んできたということでしょうかね。

恐らく、委員御指摘のように、多分この業務の差とか責任の重さとか、いろいろ差はあるかと思いますが、今までそのような運営だったということで、今のところ、取りあえず青いところで議論をしていくというところになろうかと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、青いところで議論をしていきたいと思います。

先ほど、キャップをはめて、それからその議員定数の問題と、この増額の問題、それから、先ほど委員から頂いた資料と委員の御説明も参考にしながら議論をしていきたいと思います。

それではまず、どのぐらいの額を上げるべきなのかというようなことも考えながら、先ほどの議員のなり手不足の問題があるのですが、これもいろいろな見方があって、委員がおっしゃられるように、なり手不足とあまり関係がないのではないかというような御議論もあります。

一方で、最低限の生活保障というか、それをしなければ、新しい人の参入はないということもありますので、これは、見方によって両方意見があるかと思いますが、このところの議論はちょっと横に置いておいて。

本日、配られました議員の報酬一覧表がありますが、類似団体と比べて、月額報酬が低い水準であったということがあります。これまでの資料で見てきた内容を加味して、現状の社会情勢や市民感情、こういうものに気を配りながら、折り合いのつくところを議論していきたいと思います。

これは、どのぐらい上げてどのぐらいの人数というところはありますけれども、その人数と、この報酬をアップすることによってキャップまで迫るのかということなのですから、あるいは減らすのかということなのですが、当然、議員の人数を減らすということは、極端に減らせば、それだけ給料は上がっていくのですが、一方、審議という面でいうと、当然、下がる可能性もあるわけですね、議員の数が減るわけですから、その折り合いも考えながら、ここまではこの人数を減らしてもいいだろうというところを一方で考えながら、それから、ちょっと議員報酬が低いというところも加味しながら、このぐらいは上げないと新しい参入はないだろうという、非常にいろいろな要求があって難しいところなのですが、その辺も加味しながら、皆様方、考えていただきたいと思います。

これは、全員の御意見を聞きながら考えていきたいと思いますので、ちょっと考えていただいて、大体どのぐらいはアップしないといけないだろうかということと、人数はどのぐらい、その場合減らすのかと。キャップがある中で、減らさざるを得ない、上げる以上は減らさざるを得ないと。その辺のところもお考えいただきながら、それから他市との比較も委員に出していただいていますので、それも参考にしながら御意見を頂

ければと思います。

それでは、御意見を頂きたいと思いますが、これは、全員の方から御意見を頂きたいと思います。

どうぞ、委員。

○委員 前回、私も休んで申し訳ないのですけれども、この議員定数の削減に関しては、誰がどのような手続で決めていくのか、ちょっと分からないのですよね。そこが決まらなないと、我々がどうこう言っても、一応このトータルな数字は、ある程度増やすのはよそうよという答申をし、あとは、その議員定数のところは議会が決めるのか、どういうことなのか、また、その議員定数を決める同じような委員会があって、そこで議論しているのか、その辺のところを確認してもらえればなと思いますが、いかがでしょうか。

○会長 事務局から説明しますか。議員報酬も議席についても結局、議会で議論をするということになります。我々は市長からの諮問に対して、審議会で検討した結果はこういう意見ですと、参考にしてくださいということで答申を出すということになります。

○委員 ただ我々が、例えば5万円上げたほうがいいよということで出す、そしてその附帯として、この議員の人数が減ったほうがいいよと出したとしても、5万円上げたほうがいいですよということだけが残ると、これはまた課題になるのかなと思いましたもので。そうだとすると、トータルの議員報酬は上げない、あるいは増やさない、あるいは減らすという方向性のところだけを出すということも、一つの答申の仕方なのかなと思いますので、発言させてもらいました。

○会長 ありがとうございます。そうですね、上げるとか下げるとか、その辺のところだけというのがありますが、あくまでもこの審議会の意見として参考までに出すということで、もちろんそれが議会のほうでそのまま取り上げられることはないのです。あるいは、そのまま行くかもしれませんが、それは議会のほうで御審議をいただくということになるとと思います。

当然、そこでの審議というのは、次の選挙とか、その辺は市民の方がそれを監視するというか、選挙の中で議会の姿勢をどう評価するかというのは出てくるかと思います。あくまでも審議会では審議をし、そして答申をするという立場にあるということです。

それでは、どうぞ。

○委員 今の話ですけれども、前回の議論で、我々の答申は、そこは附帯条件としてつけるという方向性は出ているという理解でよろしいですか。

○会長 そうということですね。

○委員 なので、パッケージで出すということでいいですよ、我々の答申は。

○会長 そうですね。附帯条件ということで。

○委員 増額なら増額ですけれども、増額するときは、人数削減も必ずセットですねという形で答申すると。

○**会長** そうですね。給料を上げるけれども、それは審議会としては、他の市に比べて給料が安いので上げるけれども、その場合は、定数削減についても考えてくださいということですね。

○**委員** 今日の議論で、この議員報酬の現行1億1,000万円、これは絶対額として、あるいは上限額として死守すると、ある意味では、というような答申を出すという報告でよろしいですか。多少の1万円、2万円ぐらいの増額、減額はあってもいいかもしれませんが、さっき70万円というお話もありましたけれども。なので、基本的には、これをキャップとして、削減とペアで、削減した範囲内で増やしていくということによろしいですね。

○**会長** 皆さん、よろしいですかね、それで。

では、それで考えていきたいと思います。

それでは、ありがとうございます。早速、御意見をお聞きしていきたいと思いますが、よろしいでしょうかね。

それでは、順番にお聞きしたいと思いますが、委員から行きますか、委員から行きますか。

では、委員からお願いできますでしょうか。

○**委員** 金額の部分から見たときに、どうしても今、非常に低いということがありますので、これを委員のほうから頂いている表などを見ていくと、今、白井市が相当左側に来ているのが、少し真ん中ぐらいまでに行く必要があるということになると、少なくとも5万円程度は上がらないと厳しいのかなと考えております。

そうすると、議題1の資料に基づく、1枚目の一番下になりますけれども、3人減というところがぴったりゼロという形になってくるのかなと思います。

あと、ちょっと気になる点が、では例えば3人減ったときに、実はこれが今、女性の割合が結構高いと言っていますが、実は女性が全員いなくなりましたとかというと、構成が変わるとか、あとは、以前もちょっと議論に出っていますが、これは審議会とかでいろいろな形でチェックされていると思いますが、それによって、今度は意見を言われる方が減り議会のほうでの審議でいろいろ意見が出なくなったりということになると、そこは困る点かなとは思いますが。この辺がどのぐらいうまく担保できるのかなというのは、ちょっと気になる点ではございます。

以上です。

○**会長** それでは次、委員、お願いいたします。

○**委員** 私も、この事務局に作っていただいた表を見て、5万円のところで18人だったら、ちょうどぴったりゼロなので、ここがはまるのかなと考えた次第です。

委員にお示しいただいた表でも、プランAとプランBが19人、17人で、ちょうどこの間に入るの、1割5分ぐらいの減ということですから、若干の影響はあるかもしれま

せんけれども、数的には、これが一番望ましいのかなという気がいたしております。

今、委員が言われたように、減らしたときの影響というのはいろいろ考えられますけれども。なので、一気に3人減らすのかどうかとか、1人ずつ減らすとか、ゆっくり、委員も言われていたように、時間をかけて減らしていくという手もありますから、そこも含めて考えていったらいいかなと思います。私としては、この5万円増で18人というのが、いい数字だなという感想を持っております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、委員、お願いいたします。

○委員 私は最初に言った内容と一緒になのですが、3分の2にして、だから7人減らして1.5倍にするという感じで考えていて。この資料にはまらないのですが、そういう感じがいいかなと思っています。

あと、激変緩和措置を避けるという考えもあるという考えもあると思っていますけれども、とはいえ、議員、議会は基本4年続きますから、それでまた4年間、本来あるべきというか、間違っているかもしれませんが、最終的にいつまでほしいと思うこの議員の数と金額にいくのが、また4年後に伸びてしまうと。そういうことを考えると、早く今の段階から、もうそこをターゲットにしたほうがいいかなと思っています。

あと、やはり今言ったほうがいいかなと思ったのですが、報酬が上がることで、なり手が増えるかどうかというところ。ここは多分、数では見えないと思うのです。ただ、例えば東大を落ちるから受けないみたいな感じで、負ける選挙に立候補しないという考えもあると思います。そういう中で、大体、定数に近いところに立候補者が決まっているのではないかなという気もしていて。国会とかは、ちょっと目立ちたがり屋の人が出ていたりするので、異次元の世界として、白井の議員の中では、テレビで演説とかをするわけではないので、それに本当になりたい方が、勝てる見込みを持って立候補しているはずだから、そこはちょっと違うところだと思っています。

あと、これも私は何回も言っていますけれども、報酬が増えることによって、白井の市民の1世帯当たりの収入額で、大体半分、今はたしか500万ぐらいが平均収入なので、それが750万円ぐらいまで、私の案だと750万円になりますけれども、そのぐらいまで上がると、一気に手を挙げ得る人の数が大分増えるはずなので。そういった意味でも、なり手というのは増えるはずなので。だから、増やしたほうがいいと考えています。

以上です。

○会長 ありがとうございます。7人を減らして報酬を1.5倍にするということですね。

○委員 もう一つだけ、すみません。

○会長 はい。

○委員 すみません、長くしゃべって。議員さんにまとめていただいたこの資料を読ま

せていただきました。この中で、確かにそうだなと思ったところが一つあって。定数分科会の報告の②という、ざっくり読みますと、議会というのは委員会を設けていて、その委員会の大体7人から8人ぐらいの人数がいる。今、白井には三つの委員会があるから21人要るのだという議論があります。

その21人の根拠としている数字なのですからけれども。ここに関して私が思うのは、例えば、ほかの志木市とかに関して言うと、議会委員会が二つ。志木は別に田舎の町ではなくて、駅前のバーもあるような大きな街なのですからけれども、そういうところでも委員会を二つで回している。あと、名前を忘れてしまいましたけれども、16人の市においても、委員会を三つにして、何人かが掛け持ちをして委員会をやっているとか、そういう感じでも委員会を回しているみたいなので。この議論の中では、白井は三つの委員会が必要だから、7掛ける3で21人必要だと言っているのですけれども、そこはちょっと検討されたほうがいいのかなど。

実際この意見書を出された方の中にも、その辺を見たほうがいいのかという意見をくださった方がいらしたので、私もこの意見に賛成しています。これです。皆さん読まれたと思います。この資料の2枚目に計算をしっかりと書いてくださっていますけれども、そういうことも考えたほうがいいのかだろうなどということを書いてあるので、私もそうだと思いますので、こういう感じで議会の中でも考えてくれることを期待しています。

以上です。

○**会長** ありがとうございます。

それでは次、委員、お願いします。

○**委員** 数字のみで考えると、私もこの5万円増の18人の、このゼロがいいのかと思うのですけれども。現在ある議会から、急激に突然3名減らしてもいいのかという、そこがちょっと問題かなと思うのと、人口は増減すると思うので、現在のところの目標としては、この3人を減らしていくという方向性で進めていくのがいいのかなどと思っています。

○**会長** ありがとうございます。3人減で5万円ということですね。

それでは、委員、お願いいたします。

○**委員** 私も、影響額ゼロというのがいいのかなどとも思ったのですが、もちろん減らせるのであれば減らしたいなというのがあります。

要は、ニュースで見たのですけれども、マイナンバーカードの交付率によって、その全国平均から下回っている自治体は、地方交付税がマイナスになるとか、減額にされるというニュースがあったと思うのですけれども。白井市がどういう位置にあるのか、パソコンが壊れてしまって調べられなかったのですけれども。そういうのもあるので、現行が一番いいとは思いますが、減らせるのであれば減らしたいなど。例えば、収入が減

るという方向を考えれば、現行のままでいいのかなと疑問が残っています。

以上です。

○会長 そうすると、額として。

○委員 5万円増で18人、3人減というのがいいと思うのですが、もし可能ならば、もっと減らせるようにしたいなどは思っています。

○会長 もっとですか。

○委員 マイナスがついているところがあるので、ちょっと何とも。

○会長 そうすると、可能性として、人数は減らす。

○委員 はい。

○会長 額はどうでしょうか。

○委員 額は5万増のところ、取りあえずベースで、減らせるならば、もっと4万とか3万増というところまでいければという。ちょっと今、揺れてしまっているのだけれども。

○会長 なるほど。3万、4万。

○委員 以上です。

○会長 それでは、委員、お願いできますでしょうか。

○委員 私も3人減らす18人というのがすごくいいと思うのです。18人、偶数ですし、1人議長で減っても、多数決でちゃんと答えが出るようになると思うので。前もそれで、今21人で、1人議長が減って、ぐちゃぐちゃになったことも何回もあるので。それはそれで置いておいて。

私個人の意見としては、5万円よりも、10万円ぐらい上げてもいいのではないかと思うのですけれども。これ30万円というのは、白井としてどうなのかなと。皆さん給料が少ない、少ない、30年も変わっていないとかと言っているのは、こんなところから来るのではないのかなと思うのですけれども。私の独り言ですけれども。もっと5万以上上げたいですと書いておいてください。できれば。

人数を減らすというのは当然のことで、やっていただいて、報酬のほうは、30という数字に愕然としたのです、この審議会に入って。あまりにも少な過ぎるかなと思って。はっきり言って、やりたくないですよ、これは誰か、違う仕事を持っていなかったら。すみません、そういうことです。

○会長 ありがとうございます。

では、委員、お願いします。

○委員 この市議員さんという仕事が、どのぐらい1か月の生活の中でこれに関わらなくてはいけないのかということは、ちょっと把握していないので。できるならば、多くの市議員の方が参加し、我々の市民生活の声を代弁し、市の行政に対してものを言ってもらおうということは、大事な、大きな役割だなと思っております。

そういう意味では、市会議員の方の人数が多い、これは誇るべきことであって。ただ、そこでやっておられる方が、ほかに収入を得ることができないぐらい忙しいのだと。例えば、お勤めしていたら市会議員になれないのだというような状況なのか、そのところが見えないのですが。

それともう一つは、なっている方が、他市に比べると低いよということが何か誇りを持ってやっていく上で支障になっているということであれば、考え直さないといけないのだろうと思います。

白井市の市議会というのは、多くの人を、かかる費用は同じようにかけているのけれども、より多くの意見を聞こうということで分かち合っているのだということであれば、それはそれで、すばらしいのではないかとってはおります。

ですから、負担感のない議員活動というものができないのかとは思いますが。実際のところは、今日もお出でになっている皆さんには知っている方たちばかりだから、そんなことではないのだよということであるならば、私は600万円ぐらい、でも、これまでの経緯であるわけですから、そういう中で多くの意見を聞こうということでやってきたわけで、それが市として出すお金が少ないということでもないのだというところは確認しておきたいなと思います。

私も、いろいろな委員をやらせてもらっておりますが、増やしていくということは、議会費が増えていくということは、ちょっと考える状況ではないのだろうと思います。そういう中で、実際経験し、やっている人たちの声を反映する中で、その辺のところを落とすところだろうか。

では、あなたはどうかのと思ったら、5万円ないし6万円、5万円増だと3人減でほぼ横這い、6万円増だと4人減で300万円ぐらい減るといような、先ほど頂いた資料ではそうなっております。そんな形で議会のほうが進むのかどうか。考え方は、そういうことでいいのかどうか。より多くの方たちで、報酬はそんなに考えなくてもいいのだという人たちで議会がもったら、ひまな人たちばかりでやるようになるのではないのか。そんなところで、何か揺れ動いたような意見であります、そんなところです。

以上です。

○会長 それでは、委員、お願いいたします。

○委員 報酬のほうは、私も5万円。皆さん言っていられるけれども、さっきの方のように、5万円以上でも私は構わないと思います。ただし、附帯意見として、議員定数のほうは、私も18名がよろしいかなと思います。

でも、ここは審議会なのですけれども、最終的には議員さんの中で決められますよね。だから、ここはあくまでも審議会の委員として案を出します。5万円以上でもいいのではないかなというのは、今、実際にやっていらっしゃる方の政務費、あれもすごく少ないですよ。それでもって、この市会議員の方は領収書を出して、いろいろなものの

物価が高くなっているのにもかかわらず、一向にそれは上がらない。政務費というのをもっと増やしてあげたほうが、いろいろなところに勉強も行っていただけるし、研修、質の向上もできるし、そういったので報酬も上げてほしいし、その中の政務費、これは議員さんの中で決められることだから、私の言うことではないのですけれども。

実際に私も、この委員になってから、いろいろ1年間見ましたけれども、3分の2ぐらいの方は、本当に一般質問とか各議員さんの活動の広報紙とか発行していらっしゃる、とても市民から信頼されて期待されている人が多いと思います。そうではない方も中にはいらっしゃいますけれども、そういった意味からも、本当に頑張っていていただいている方たちには、報酬は上げてあげたいなと思います。

報酬を上げたから、いい方ばかりだということをたしか、第1回目の会議で、市長から話もありましたけれども、報酬が低いから、いい人が来ない、高く上げればというのもあったのですけれども、私はさっき委員さんもおっしゃったように、それイコールではないと思います。やはり質の問題もあるし、今現在、私が知っているような方たちも見ますと、本当にどこで活動していらっしゃるの？という議員さんもいらっしゃるし、いろいろな現場に出て行って、市民のニーズを聞きながら議会で一般質問をしていただいたり、広報を出していただいたり、本当にありがたいなと。だから一般の市民の方にも伝わるのだらうと思います。

そういった意味から、私も報酬を上げることは賛成です。先ほど言った附帯意見としては、これは本当はどちらなのか分からないのですけれども、私なりに考えたら、この議員定数というのは、附帯意見として言わせていただくと、18人ということですね。以上です。

○会長 それでは、委員、お願いします。

○委員 ほぼ言い尽くしたのですけれども、私は具体的に何人とか、幾ら上げるとか、そういう答えは持っておりません。皆さんの意見に従います。

私の先ほどのグラフのプランA、プランB、プランCのグラフを見てほしいのですが、この白井市現行とA、B、Cを直線で結ぶと、この線よりも下に行けばいいのです。上に行くともまずいわけですから。この下に行くのであれば、AであろうとAダッシュだろうとBだろうと、それはいいと思うのです。

それで、私が問題にしたいのは、前回のこの場で、諮問を出した議長の直接の話を聞きたいと言ったのですが、これは、この会議で初めに事務局からもらった資料、議長から市長宛ての諮問ですね、去年の10月。ここには、議員定数並びに報酬に関する調査会を設置し、調査を行ったところ、議員報酬が妥当ではないとする意見にまとまりました。定数のことは何も触れていないのですよ。これは、はっきり言っておかしいのではないかと。はっきり言って隠していると。

それで、その2ページ目に、2020年11月の調査会報告というのが載っているのです。

ここには、議員定数についてゴシックで書いてあります。現在の議員定数は適正値の範囲内であると。とても私は信じられない。そこに、人口から見た議員定数、近隣市との比較、そこまで書いてあるのに、適正値の範囲内と、私から見れば、しゃあしゃあとやっているのです。普通であれば、適正値の範囲から離れているけれども、とか言うのが普通ですよ。

これの過去の議論を見ますと、いろいろな審議会の委員が、21名でいいという人もいれば、17人にすべきだとか、15人だとか、一番少ないのは12名でいいと、それぞれの根拠とエビデンスで言っているわけですね。こういうことが全然反映されない。あるいは知らんぷりをして、議員定数のことに全く触れていないで、報酬を低い、低いと。これでは、子供がおもちゃを買ってくれと言っているのと同じです、はっきり言って。

私は初め、1回目はこういうシステムは分からなかったもので、附帯意見の中で議員定数の問題は言うべきではないかと言ったと思うのですが、これは附帯意見ではなくて、むしろ条件だと。報酬を引き上げることについては反対はしないが、その条件として、議員比率を下げない範囲内で検討すべきだと、具体的にはっきり言ったほうがいいのではないかというのが私の考えです。

以上です。

○**会長** ありがとうございます。

それでは、皆様方の意見をまとめていきたいと思っておりますけれども、今、事務局にこのホワイトボードのほうに書いていただきました。

御覧いただきますと分かりますように、委員は、かなり大幅にアップということを御主張されていますけれども、大方の方が大体5万円を基準としているように思います。5万か6万、あるいは5万以上となっていますけれども、大体5万ぐらいかなと思いますので、この5万円というのを、一番多いので、ここを一つの増額の基準としたいと思いますが、5万円増というところでいかがでしょうか。

もし反対などの意見があれば、発言いただければと思います。

どうぞ。委員。

○**委員** ぐらぐら揺れていますけれども、確かに金額を示すのは難しい。感覚的には、委員がおっしゃったように、30万円ってどうなのという感じがするので、そこは、10万円ぐらいはプラスで40万円がいいのかなという気持ちはあるのですが、数字の話をここでし出すと、なかなかまとまらない気もして。かつ、5万円というと、それは増額に値しないような感じもして。

委員とか委員がおっしゃられたように、数字を決めないで条件だけ決めて、この1億1,000万円というところは超えないように人数と増額を調整してください、それが増額の条件です、でもいいのかなとちょっと思ってきました。

ただ、実際、人数が減って、どう議会が不全になってしまうかというのは、議員の方

こそ一番分かっている話だから、どこまでが限界とかというのは十分に話し合っていて、委員会の話もそうですし、それで考えたほうがいいのかなど。

私もこれをしっかり読ませてもらったのですが、今の議会の議員数を妥当だということを言うことに主眼を置き過ぎていて、深く突っ込まなさ過ぎていて感じがしています。例えば、印西市に関しては、人口が急激に増えたから比較の対象にならないと言っていますが、そもそも印西市は、9万人で議員が22人だったので、その比率で考えたら白井の比率は多いので、そこで思考をやめてしまうというのは、やはり違うと思いますし。

さっきの委員会の話に関しても、実際、ここで比較で書かれている志木市とか別の市でも、16人とか14人で回している市があって、十分回っていると。そういうのを見ずに、白井は3委員会7人体制でやるから変更できないのですというのは、突っ込みが弱いような気がします。そういったところも含めて、本当にどこが、なり手不足を解消するためとかという考えから妥当なのかと、もう少し踏み込んで、議員として議論をしていただきたい、これに対して、と感じました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

これは今、委員から意見がありましたけれども、上げるということだけ決めて、そして、このキャップをして、その中で議員数を議会で考えてくれという答申でもいいのでしょうか。それとも、やはり踏み込んで答申を出す必要があるのでしょうか。そこはどうでしょうか。

お願いします。

○事務局 他市の状況などを見ますと、ほとんど全て報酬審議会を持って、議員報酬の審議をいろいろな市で行っています。

答申結果を見る範囲においては、やはり具体的な金額提示をしないと、議会側としても、幾らが適正かという議論がありますし、そもそもこの報酬等審議会の事務分掌が、報酬と、あとは、先ほど出ました政務活動費の額について御審議いただくというのが、本審議会の役割ということになりますので。基本的には、金額を答申していただくというのが一般的であろうと考えております。

あと、定数の議論については、ほかの市を見ますと、附帯意見、附帯条件という扱いでされているケースが多いように感じております。

○会長 ありがとうございます。

ということでございますので、増額の額を審議会として出ささせていただいて、附帯条件として、このぐらいの人数というのを参考にして議論してくれということで答申を出したいと思いますが。

委員、どうぞ。

○委員 附帯条件なのか、附帯意見なのか、ニュアンスが随分違うと思うのですけれども。前回までの議論と今日の議論を考えると、私も委員と同じで、これは条件だという認識でおるのですが、いかがですか。意見だと何か弱いので。要は、これがペアでないと、増額も我々も答申しませんというニュアンスなのか。そこははっきりしたいという気がいたしますが、いかがでしょうか。

○会長 どうぞ、委員。

○委員 私も報酬額の増額について具体的な数字を出すのであれば、議員定数も具体的な数字を出すべきだと思います。

○会長 ほか、意見いかがでしょうか。

附帯条件ということで、ちょっと強くなりますけれどもよろしいでしょうか。

では、審議会の意見としては、附帯意見ではなく、附帯条件という形で出したいと思います。

そこで、5万円増ということでよろしいでしょうか。ほかに御意見がなければ、この5万円増で。

そして、議員定数なのですが、こちらのほうは、マイナス3人が多いのですかね。18人にするということですね。18人とする委員が多いようです。ですので、議員定数を18人とし、マイナス3ということのを附帯条件として審議会の意見として出すということでもよろしいでしょうか。

それでは、御意見が特にございませんので、そのような形にいたしまして、まとめると議員の現行の報酬が30万円から35万円に上るということになります。年間の報酬プラス手当が597万1,000円ということになりまして、定数が3人減ということのを答申したいと思います。常任委員長が36万円、議運の委員長も36万円、副議長が37万円、議長が44万円ということになります。

そういう方向性が出ました。それでは、その方向で答申を出したいと思います。

では、この流れで、議題の2のほうに移ってまいりたいと思います。

議題の2ですけれども、こちらのほう、答申について、まず事務局よりお願いできますでしょうか。

○事務局 議題の2としまして、資料を1枚お配りしております。表が議会議員の報酬について答申とありまして、裏側に、市長から諮問事項として出た諮問書を載せてあります。

諮問としましては、1、2と二つ、この審議会に諮問されておりますが、現段階では、1のほうの市議会議員の議員報酬の額について、今日まで審議していただきましたので、こちらを審議会の会長さんの名前で答申を出して、その後、引き続き市長、副市長、教育長の給料の額については、今後審議し、改めて答申しますというような内容で出すことを事務局としては考えております。

先ほどからお話に出ているかと思うのですが、ここでは書き方の案としまして、1、市議会議員の議員報酬の額について、先ほどの金額ですとか条件の部分について記載することになるかと思えます。そして、2の答申に当たっての意見については、その1を決めたであろう背景ですとか、皆さんの特にこの審議会での思い入れの部分ですとか、加えたいことを意見として文書にするのがいいかなと考えております。

ここで一字一句の調整はもちろんですできませんので、キーワードベースで、どんなことを皆さんとして意見の中に入れていかなど、御意見を出していただければと考えているところです。

以上です。

○**会長** それでは今、事務局から説明がありましたように、議題の2の答申ですけれども、議会議員の報酬についてということで答申を出しますけれども、具体的な文章はここでは調整ができませんので、審議会として市長へ提出する答申に盛り込む内容としてのキーワードレベルをここで出していただきまして、それをここに書き込んでいくということになります。ですから、キーワードを、これだけは入れるということを出していただければと思います。

今、報酬額とそれから附帯条件については、入れるということになってはいますがけれども、ほかにキーワードとして何かございますでしょうか。

どうぞ、委員。

○**委員** さっき言ったことと一緒になのですが、この5万円プラスの18人というのは、全然反対ではないのです。ただ、もう少し掘り下げて、これに限らずという感じで、定数に関しても、この報告をもう少し掘り下げて、定数の妥当性を検討し、それに応じて金額の増額も、この1億1千万の中で検討することをお願いします、と言ったらいいいのかな。

○**会長** そうすると、それは今回、それとも将来的に見て、もう少し掘り下げてほしいということをお答申するのですか。今回ですか。

○**委員** 2か月あるから、ちょっと私が調べても、何となく分かったこともありますから、これをもう少し掘り下げて調べたら、いろいろなことが出てくるような気がしています。その21人の妥当性、21人が妥当ではない、18人でも16人でもいけるといったところが言えるような気がしています。その辺をもう少し掘り下げて妥当な定員数を検討してほしいということを、これは意見なのです、意見として入れるぐらいがよろしいのだと思います。

○**会長** そうすると、さらに定数について検討してほしいということですかね。

○**委員** はい。

○**会長** それを入れるかどうかということですが、どうでしょうか、今回の答申。  
どうぞ、委員。

○委員 今回は、ここで数字を1回出しているのですが、将来的にさらなる検討ということはいいと思うのですが、一体何人なのかが妥当なのかをわずか2か月で議論はできない、逆にもっと長くなってしまう可能性があると思いますので、そこは、検討の時間軸は明確にしておいたほうがいいのではないかと思います。

以上です。

○会長 ということですね。ありがとうございます。

委員、どうぞ。

○委員 5万円で人数ということではいいのですけれども、なぜ、その数字にこだわるのかというところを答申の中に加える必要があるのではないのかなと。健全財政を守りたいというようなこと。あと、その中で我々がある程度、今、最低賃金も上げていく、インフレになる、そういう社会的情勢の中でも、誇りを持ってしっかりやっていただいている方たちに応えていくべきだろうと。そういう両者の中でこういう数字がいいのではないかということをうたう部分について、少し説明的な事柄を共有された範囲内では載せていくべきではないかなと思います。

○会長 ありがとうございます。健全財政については、皆さん異論のないところかと思えますので、これはぜひ入れるべきだと思います。

それから、議員活動にとって必要な、それ相応の額として5万円アップすべきだということかと思えますけれども、その辺はどうでしょうか。入れておいたほうがよろしいでしょうか。いかがでしょうか、皆さん。

どうぞ、委員。

○委員 まさに私が申し上げたかったのは、その点で、健全財政という観点から今回キャップをはめたということですよ。議員報酬については全くいじりませんという中で、ただ、おっしゃったように増額、現状はほかと比べても低かったということで上げますと。上げるならば、附帯条件として議員定数を見直してくださいという答申を上げますということなので、まず前提として、財政健全化の観点から、現行の議員報酬を上限として、その範囲内で賄いますというのは最初にうたって、その上で我々はこう結論を出しましたという形にしていただければなと思います。

それから、定数に関しては、これは今後も社会情勢等変わってくるので、定期的に見直してくださいというお願いですね。それは、この審議会でもよろしいかなと考えています。これも先生が言われたように、定期的に見直していくというところが必要かなと思います。

○会長 いかがでしょうか。議員定数について、将来的に定期的に見直してくださいということを入れるということですが、こちらのほうはいかがでしょうか。入れたほうがよろしいでしょうかね。

それでは今回、深く掘り下げるというよりも、定期的にということで、将来に向かっ

てということで、これは入れさせていただくのと、先ほど、議員としての議員活動のために上げるという、先ほど委員がおっしゃられた、これはいかがいたしましょう。入れておいたほうがよろしいですか。どうでしょうか。

○委員 今、給与を上げていくということは大事なことではないかなと。自分などはどちらかというと、工業団地の代表として出ていて、やはり社員の給料を上げていくことを目指そうよと。そのためには生産性、1人当たりの時間に対する生産性。例えば議会の運営にしても、今、集まらなくてもZoomでやるとか、いろいろなオンラインを使う形でやっていこうということで、そういう意味では変えていかななくてはいけない。

白井市は、結構こういう委員会活動も多いではないですか、市民参加という形で。そういう形のもので、議員さんが担っている役割との調整ですよ。もう何十もこういう委員会活動があるわけで。そして、ただそうした人たちの報酬は、こうやってみると、他市に比べて高いのか低いのか知りません。これも何か払ってくれているようで。私ももらっているのですけれども、出るたびに。それはないと、またいけないのだろうと思いますけれども。そういったところも、これからいろいろ調整をしながら、市民の声を聞く、民主的な手続き行政の関係に言っていく。そういうことを今のこの附帯のところにどう盛り込めるかはともかくとして、総合的にいろいろ考えて進めるべき事柄であろうなとは思っております。

○会長 ありがとうございます。

そうしたら、そういう社会情勢の中で議員の果たすべき役割というのは重く、要するに分権化とともに議員の役割や責任が重くなっているというような趣旨のことを少し加えた上で、さらに財政的な健全さに鑑みて、こういう結論でしたということを入れるということによろしいでしょうか。

ほか、いかがでしょうか。ほか、キーワードがあれば頂ければと思いますが。特によろしいでしょうか。

それでは、今出していただきましたキーワードを入れることといたしまして、事務局に調整していただくこととしたいと思います。そして答申を完成させたいと思います。

これで議題の2の答申については終了したいと思います。

では、議題の3のほうに入っていきたいと思います。

その他ですが、事務局のほうで説明をお願いいたします。

○事務局 議題の3としまして、こちらの資料を1枚お配りしています。R3、R4、R5年度特別職報酬等審議会スケジュールというものです。こちらで今日、第5回の会議ですが、先ほど市議会議員の報酬額の改定案と答申に盛り込む内容についてまとめていただきましたので、あとは、キーワードを頂いた中で事務局案を作成しまして、また会長さんに御相談等しながら調整を進めたいと思っています。

ということから、今回第5回ですが、予定していたところまでの審議を終えたと、今、

事務局としては考えておりました、皆さんにここから先、不足がなければ、今年度の会議については、第5回で締めくくりたいと思っているところです。

来年度につきましては、引き続き、また日程調整等、近づきましたらさせていただこうと思っておりますが、今年度は今回で済み、来年度は、また引き続き別の議題について審議をお願いしたいと思っております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

今年度、令和4年度のこの5回の審議をもって答申を出しますので終了ということになります。前倒しいたしましたので、今回、9月の末で終わったということでございますが、今、事務局から説明いただきました点につきまして、何か質問がございますから、委員のほうからお出ししたければと思いますが、よろしいでしょうか。

ないようでしたら、その他は終了したいと思います。

皆様方の御協力によりまして全ての議事が終わり、答申を出せるまでになりました。非常に短期間で密な御議論をいただきまして誠にありがとうございます。

これで本日の議事は全て終了いたしましたので、これで第5回のこの審議会を閉会とさせていただきたいと思っております。これで議長の任を解かせていただき、事務局に進行をお願いできればと思っております。